

～生分解性マルチ利用者を訪ねて～

【SDGs を推進していると社員に言えるのは嬉しい】 神栖市 飯田等さん

[https://va.apollon.nta.co.jp/r6\\_shoryoku-green\\_ibaraki/](https://va.apollon.nta.co.jp/r6_shoryoku-green_ibaraki/)

生分解性マルチの利用者紹介第2弾は、茨城県神栖市の農業生産法人「株式会社 agri new winds」の代表取締役の飯田等さんです。

飯田さんの畑ではピーマンやしいたけ、ミニパプリカ、リーフレタス、メロン、いちご、スイカなどを育てています。



#### ▶導入経緯について

飯田さんが初めて生分解性マルチを試したのは、10 年程前。知人から、使用後に水と二酸化炭素に分解される生分解性のマルチがあることを聞き、初めてのことが好きだったのと、マルチの回収や処分が面倒だったので使ってみたとのことです。

しかし、以前の生分解性マルチは強度が弱くて展張の途中で切れてしまい、使い勝手があまり良くなかったそうです。農作物の生育は変わらないものの、費用が慣行マルチの約4倍と高価だったこともあり、使わなくなってしまいました。

飯田さんは、今回約10年ぶりに生分解性マルチを導入されました。その理由については、「技術が進歩した現在の生分解性マルチは、慣行マルチと変わらない扱いやすさになっています。農作物の収穫後にマルチを回収・廃棄する手間・時間・労力が不要な事を考えると高価でもメリットの方が大きく、今回の事業による費用補助もあって導入を決めました。」とのことです。

実際の作業についても、「そのまま土中にすき込めば分解されて無くなる生分解性マルチは非常に省力的です。慣行マルチの場合、廃棄処分には当然お金がかかりますし、回収機つきの収穫機でマルチを巻きながら作業すると、巻き取ったマルチを廃棄する際に指定の方法でもう一度たたみ直さなければならないのが大変な労力で、廃棄場に持っていくのも大変です。この一連の作業がなくなれば、その労力で違う仕事ができます。」と、その特長を高く評価されています。



また、「我が社でも、国連の掲げる持続可能な開発目標の達成に向けた SDGs 宣言を実施しており、自然環境にやさしい農業を日頃から心掛けています。企業として農業に取り組む中で、生分解性マルチの利用は、国の『みどりの食料システム戦略』におけるグリーン化の取組にもつながるものと考えています。そんな取組を推進していると社員に言えるのは嬉しいですね。」とも話されていました。

◎留意点：利用する地域によって生分解性マルチの分解を促す土中微生物の量が異なるため、分解に要する日数には違いがあるようです。

#### ▶生分解性マルチの導入補助事業について

現在、茨城県では、従来のプラスチックマルチから生分解性マルチへの切り替えや利用面積を拡大する認定農業者等を対象に、購入費用の一部を支援する「省力化・グリーン化同時実現型資材活用推進事業」を実施しています。

飯田さんからは、「補助事業の申請資料作成はそれほど難しくなく、2、3時間で作成できました。農業資材店などに商品の見積りを依頼することに慣れていない方も多いようですが、わからないところは市町村の農政担当課や県の農林事務所、もしくは申請受付センターに聞いて教えてもらうなどして、是非、積極的に事業を活用してはどうでしょうか。」と、これから事業の活用を検討する農業者の皆様に、アドバイスをいただきました。

皆様もこの機会に是非、補助事業の活用により、環境負荷の低減と農作業の省力化を実現する生分解性マルチの導入を検討してみてください。

補助事業の詳細につきましては、上記の電子申請サイトの URL によりご確認の上、申請受付センターまでお申し込みください。

#省力化・グリーン化同時実現型資材活用推進事業

#生分解性マルチ

#農業用資材

